

## 富士山山行報告

【山行日】2017年 8月19～20 (土・日)

【集 合】岩舟支所P AM 5:30

【費 用】マイカー1台 : 15,900円

【メンバー】CL:鈴木、岩淵、関、津佐、  
藤原、松館、渡辺

19日 : スバルライン五合目から吉田ルート  
を登り、本八合目トモエ館に宿泊する。

岩舟支所 P7530＝富士北麓 P7:40/8:00＝  
スバルライン五合目 8:40/9:00～六合目  
9:40/9:50～七合目 10:50/11:00～八合目  
12:00/12:30～本八合目トモエ館 13:40



「行きたい山アンケート」で希望者が多かった富士山、お鉢巡りもリクエストがあったのでこの時期に計画した。関東地方はぐずついた天気が続いていたが、山梨県は晴れマークが出ていた。



しかし、富士山は3776mの独立峰であり、山頂付近の天気はどうなるか心配しながら出発する。

途中、八王子 JCT から渋滞し、富士北麓駐車場に10分遅れて到着した。富士スバルラインはマイカー規制されており、ここからシャトルバスに乗り換えスバルライン五合目まで移動する。スバルライン五合目でバスを降り、トイレを済ませストレッチを行ってから出発する。観光客で賑わうスバルライン五合目ロータリー

を抜け、道標に従って砂礫の車道を進む。

泉ヶ滝の分岐までは、広い車道を緩やかに下って行く。右側の山頂を見上げると、青空が広がり雨の心配は全く無さそうである。

泉ヶ滝の分岐で佐藤小屋への道と分かれ、右方向へ登って行く。六合目の富士山安全指導センターの所で休憩し、衣服調整をしてトイレを済ませる。この先で吉田口からの登山道と合流し、いよいよ本格的な登りが始まる。

まだ傾斜は緩やかで余裕があり、後ろから楽しそうな会話が聞こえてくる。七合目手前から

岩稜上を歩く急な登りが続き、呼吸が苦しくなり会話も途絶える。七合目の最初の小屋「花小屋」で休憩し、トマトを食べ水分を補給する。七合目は山小屋が数軒つづいて建っており、小屋の前で大勢の登山者が休んでいた。元気な若者や外人グループに追い越されるが、一步一步ゆっくりと确实



に登って行く。心配した高度障害も軽度のように、皆さん元気に登って行く。八合目山小屋を過ぎた所でランチタイムとし、お湯を沸かしてカップヌードルとパンを食べる。お茶を飲んで、デザートのみかんを食べたら出発する。ここからはザレた登山道を九十九折れに登り、徳ちゃんが「ここからが大



変なんだよ。見えてるけど中々着かないんだよ」と言っていた。上を見上げると今宵の宿「トモエ館」の文字が見え、「あそこまでだから頑張ろう」と声を掛ける。一步一步ゆっくりペースで登って行くが、七合目で抜かれた外人グループを抜き去る。ゆっくりペースでも休まず歩けば、確実に高度を稼げる。本八合目「富士山ホテル」を過ぎ、石段を登ると今宵の宿「本八合目トモエ館」に着いた。徳ちゃんも「エ～もう着いたの？今回はすごく楽しかった」ととてもうれしそう。早速受付を

済ませ、小屋利用の注意事項や説明を受け部屋に案内される。案内された部屋は2段の上の段で、一人ずつ寝袋が与えられるが、天井が低く頭をぶつける。荷物を整理し、女性が着替えるので男性は外に出て待っていた。しばらくするとI 瀏さんが来て、「天上が低いので着替えていたら足が攣ってしまった」との事。小屋の方にお願ひし、部屋を下の段に変えてもらい、一人一枚の布団の部屋で皆喜んだ。ところがこの時は分からなかったが、後で大変な騒ぎになる。とりあえず落ち着いたら外に出て、宴会が始まった。無事に本八合目まで登れ、皆さんニコニコ顔でとても嬉しそう。



楽しく飲んでいると、セーラー服の男性が登って来た。話を聞くと「埼玉の愛ちゃん」と呼ばれ、地元では有名人らしい。せっかくだから一緒に記念

写真を撮らせてもらう。宴会の途中、4時30分から夕食の案内があり、早い夕食をいただく。

夕食はカレーにハンバーグが載り、結構ボリュームがある。

夕食が済んだら早めに布団にもぐりこむ。ところが部屋が厨房の真上で、調理のにおいがまともにならってくる。ご飯を炊く臭いや、揚げ油の臭いが一晩中続いた。9時くらいまで文句を言っていたが、そのうち疲れて静かになり皆さん眠りについたようだ。

**20日：トモエ館から富士山頂の一角「久須志神社」に登り、浅間大社奥社から剣ヶ峰を經由してお鉢巡りを楽しみ、吉田ルート下山道を下りスバルライン五合目へ下る。**

トモエ館 3:45～九合目 4:40～久須志神社 5:05/5:20～浅間大社奥社 5:50/6:05～剣ヶ峰 6:20～久須志神社 6:50～下山道口 6:55/7:05～須走八合目 7:30～六合目 8:55～スバルライン五合目 9:25/9:40＝富士北麓 P10:15/10:25＝紅富士温泉 10:40/12:15＝岩舟支所 P14:20

夜中、雨の音で目が覚める。屋根と屋根の間の雨どいに、雨が落ちる音が大きい。そのあと団体客が小屋に次々に到着し、休憩し朝食を食べてから出発して行く。添乗員がスケジュールの説明をするが、その声がまともには聞こえてくる。我々も3時前に起床し、朝食の弁当を食べ出発の準備をす



る。外に出ると星が輝いており、眼下には富士吉田の街の明かりがとても綺麗だ。小屋の前には下から上がってくる登山者が大勢休み、次々に登って来る。上を見上げると、ヘッドランプの列が山頂



までつながっていた。我々も登山者の列の後に付き、山頂目指して登り始める。ゆっくりしたペースで登って行くと、下から夜通し登って来た方が疲れ果てて休んでいた。御来光館で小休止し、衣服調整と水分を補給する。九合目の鳥居まで登ると明るくなってきたが、渋滞でノロノロ歩きになる。山頂直下の鳥居では、渋滞がピークで動かない。やっと山頂の久須志神社に着き、皆さんと手を取り合って登頂の喜びを分かち合う。御来光に間に合ったので、しばらく待って写真に収める。心配した風も穏やかで、対岸の剣

ヶ峰をバックに写真を撮り、剣ヶ峰を目指す。途中、富士宮口の浅間大社奥宮に寄り、トイレを済ませトマトを食べる。ここから剣ヶ峰へは、砂礫の滑りやすい急坂を一步一步登って行く。

剣ヶ峰の肩まで行くと、順番待ちの列が連なっていた。写真を撮るのに1時間以上待たなければならぬので、脇で写真を撮ってお鉢巡りに向かった。お鉢の西側大沢崩れ上部に出ると、雲海の上に影富士が映っていた。初めて見る影富士に皆さん大興奮し、「ウワ～影富士まで見られて超ラッキー」と大喜び。ここから一旦小内院へ下り、白山岳を巻くように歩き登り返すと久須志



岳山頂に出る。山頂から剣ヶ峰バックに記念写真を撮り、少し下ると久須志神社に戻る。Sさんと徳ちゃんは、念願のお鉢巡りを成就出来「もうこれで富士山は卒業だ」と満足していた。下山路手前でトイレを済ませ、下山専用の道を下って行く。砂礫の歩きにくい道を、ジグザグに降りて行くが、脚を取られないよう注意して下る。それでも登りのような息が切れることは無いので、登りとは段違いの

スピードで降りて行く。皆さんとても元気で、次々と先行者を追い越し30分足らずで八合目分岐に着く。

大腿四頭筋が悲鳴を上げるが、ひたすらジグザグに下り続け七合目へ着く。ここからは少し傾斜が緩くなり、脚への負担も軽くなる。六合目の富士山安全指導センターで最後の休憩を取る。ここからほんの少し下ると泉ヶ滝で道路に出て、緩やかに登るとスバルライン五合目に着く。トイレを済ませバス発着所に行くと、丁度下りのバスが出る所だった。富士北麓駐車場に1時間45分早く着き、靴を履き替え温泉に向かう。紅富士温



泉でゆっくり温泉に浸かって山の疲れを癒し、レストランで各自好きなものをオーダーいただく。帰りの高速道も渋滞が無く順調で、予定よりも2時間早く岩舟支所に帰宅できた。